

寺田寅彦の銅像建立について

寺田寅彦の銅像を建てる会  
会長 青木 章泰

寺田寅彦は1878年（明治11年）11月28日に東京市麹町区平河町3丁目（現在の東京都千代田区）に、父寺田利正、母亀の長男として生まれました。（父寺田利正は坂本龍馬と同時代の郷士であり、井口事件等を通じて交流もあった人で、明治時代には陸軍会計官を務めました。）寅彦には姉が3人いて、4人兄弟の末っ子でした。1881年（明治14年）3歳の時に高知市大川筋の家的一家とともに帰り、江ノ口小学校を経て高知県尋常中学校（高知追手前高等学校）から1896年（明治29年）に熊本の第五高等学校に入学しました。そこで、夏目漱石に英語と俳句を学び、田丸卓郎に物理学とバイオリンの指導を受けました。そして、1899年（明治32年）東京帝国大学理科大学物理学科に入学しました。その頃、夏目漱石を通じて正岡子規と知り合います。（なお、「吾輩は猫である」の水島寒月や「三四郎」の野々宮宗八は、寅彦がモデルであったと伝えられています。）

また、1903年（明治36年）大学院に入り、実験物理学の研究を始めました。ここでは、音響学や潮汐の副振動など振動・波動に関する研究を行い、磁気学に関する論文を書きました。また、この頃から「ホトトギス」に「団栗」「龍舌蘭」「花物語」などの小説を発表しています。1904年（明治37年）には東京帝国大学の講師となり、後進の指導にあたりました。1908年（明治41年）には論文「尺八の音響学的研究」で理学博士となります。翌年には助教授となり、その年にドイツへ留学し、フランス、イギリス、イタリアなど各地で地象物理学について調査しています。1911年（明治44年）に帰国し、1916年（大正5年）に教授となります。1917年（大正6年）には「ラウエ映画の実験方法及其説明に関する研究」で学士院恩賜賞を受けました。その他に、航空研究所員、理化学研究所員、帝国学士院会員、地震研究所員などを務めました。

\*

博士の研究と興味・関心は非常に広汎で、ほとんど物理学のすべての領域にわたっています。その論文は250編に達しています。その内容は地震学、津波、海洋学、気象学、火災学、航空船の爆発、電気スパーク、渦巻き、砂層の崩壊、ガラスの割れ方など災害、地球物理学に関するものを始め、椿の花の落ち方、生物の縞模様など、生物物理学といえる範囲にまで及んでいます。このように、日常身の諸現象を対象としてあくまで具体的に分析し、その間に何らかの法則性を見出そうとするところに所謂「寺田物理学」の特質があるといえます。文学や随筆においても同様の手法が用いられ、独創的な着想、科学的な追究、警抜な結論などで日本文学の中に独特の境地を打ち立てました。それは、地震や災害等を題材にした随筆（筆名は吉村冬彦）を頂点とする「寺田文学」に結実しています。また、俳人としても松根東洋城らと晩年まで連句をつくりました。その他、油絵、水彩画、ピアノ、オルガン、バイオリン、映画批評など非常に幅広く才能を発揮しました。ある意味で「日本のレオナルド・ダ・ヴィンチ」とも言える人だったのではないのでしょうか。門下生に中谷宇吉郎、藤原咲平、宇田道隆ら英才が多くいます。著作は「寺田寅彦全集」（30巻）に収められています。また別に論文を収めた科学篇6巻があります。

\*

\*

「天災は忘れた頃にやってくる」は2011年（平成23年）の東日本大震災の際にも、何度も引用された言葉であるばかりでなく、今日の日本に改めて大きな警鐘を鳴らし続けています。また、東日本大震災以降、博士の著書が相次いで復刻出版され、静かなブームとなっています。こうした機運は、日本全

体が博士の考え方を必要としていることに他なりません。

日本は、この未曾有の東日本大震災を経験し、南海トラフ巨大地震を始め、各地で予測される新たな震災等に立ち向かわなければなりません。こうした折、『天災は忘れた頃にやってくる』という言葉と永遠の警告を残してくださった寺田博士ゆかりの地・高知から全国へ、この思想を改めて発信する必要性を感じるものであります。また、未来の日本を託す子どもたちに、博士が残してくださった「科学する心」をしっかりと引き継いでいく必要があると考えます。そのためにも、博士がよく呟かれたという「ねえ君、不思議に思いませんか？」を彷彿とさせるようなモニュメントが必要だと思っております。さらには、高知に寺田寅彦博士が生きていたことを後世に伝えていく使命感を感じています。

私たち「寺田寅彦の銅像を建てる会」に集う者は、こうした話し合いを重ねたのちに、多大な業績を残された寺田博士を顕彰し、あとに続く郷土の後輩たちに改めて博士の偉大さを知らしめるために、博士の銅像を建立し、高知市に寄贈して、現在建設が進められている新図書館（前高知市立追手前小学校敷地）の敷地内に設置していただくよう考えるに至りました。ご賛同くださる皆様方のお力をお借りして、一日も早く実現したいと考えています。

\*

銅像は新図書館の落成に合わせることを目標に全国の皆様方のご協力をいただきたいと思います。目標とする金額は 1,000万円です。

ご賛同いただける皆様は下記のいずれかの口座へお振込くだされば幸いです。

なお、寄附に関しましては、国等に対する寄附金に該当することの確認を受けており、領収証等にその旨明記しておりますので、領収証の必要な方は、振込用紙記載の「領収証の必要」の項に丸印をご記入ください。

個人または法人からの本募金についての寄附金は、法人税法第37条第3項第1号、所得税法第78条第2項第1号に定める地方公共団体に対する寄附金として、損金算入又は寄附金控除の取扱を受けることができます。

ご寄附いただきました方々のご芳名は、未永く記録に止めることとさせていただきます。

なお、この運動に関する報告書につきましては、寺田寅彦記念館に常備しておきますので、ご覧くださいようお願いします。

- 金融機関 四国銀行神田支店 (普通預金119-5121235)
- 高知銀行本店営業部 (普通預金001-3036426)
- 高知信用金庫本店営業部 (普通預金021-0497092)
- 四国労働金庫高知支店 (普通預金802-4019269)

口座加入者名 寺田寅彦の銅像を建てる会 会長 青木章泰

- 郵便局振込

口座番号 01620-8-41340

口座加入者名 寺田寅彦の銅像を建てる会

- 目標額 1,000万円
- 希望 1口5,000円 (特に上限・下限は設けません。)
- 受付期間 平成26年9月1日～平成27年8月31日
- 手数料 振込手数料は各自でご負担ください。

連絡・問い合わせ先

寺田寅彦の銅像を建てる会事務局 (杉の子第2幼稚園)

山本 健吉 電話 088-832-0137

FAX 088-832-0146

## 「寺田寅彦の銅像を建てる会」募金要綱

### 1. 募金団体の名称及び責任者

名称 寺田寅彦の銅像を建てる会  
会長 青木 章泰

### 2. 募金団体の所在地等

所在地 〒780-8037 高知県高知市城山町180-1  
杉の子第2幼稚園内  
寺田寅彦の銅像を建てる会  
電話 088-832-0137

### 3. 募金の目的

寺田寅彦の銅像の建立

### 4. 募金目標額

募金目標額を1,000万円とする。

### 5. 募集期間 平成26年 9月 1日～平成27年 8月31日

### 6. 募金地域

募金地域を全国一円とする。

### 7. 募金対象者

募金対象を個人及び法人とする。

### 8. 募金の使途計画

科目	費目	予算額	備考
銅像建立費 (高知市へ寄附)	銅像製作費	3,000,000	調査費・原形製作費・材料費等
	鋳造、取付費	3,000,000	鋳造・仕上加工費・着色費等
	台座製作費	3,000,000	設計管理費・石材加工費等
	説明板制作取付費	500,000	設計・説明板作成費等
事務費	印刷費	156,462	募金趣意書・封筒・振込用紙 ・領収書・報告書印刷費
	通信費	234,000	募金依頼文書・領収書・報告書送料
	需用費	54,458	印・コピー用紙代・プリンターインク等
	会場費	55,080	会場使用料
合計		10,000,000	

### 9. 募金方法

- (1) 高知県内外の寺田寅彦を顕彰している方や小・中・高等学校及び大学を中心に募金趣意書を郵送し協力をお願いする。
- (2) 役員が企業を訪問し協賛をお願いする。

## 10. 募金の管理

(1) 学校法人宮地学園杉の子第2幼稚園内に寺田寅彦の銅像を建てる会を設置し、寄附金は、以下の口座に入金し事務局長山本健吉が管理する。

- 金融機関 四国銀行神田支店 (普通預金119—5121235)
- 高知銀行本店営業部 (普通預金001—3036426)
- 高知信用金庫本店営業部 (普通預金021—0497092)
- 四国労働金庫高知支店 (普通預金802—4019269)

口座加入者名 寺田寅彦の銅像を建てる会 会長 青木章泰

- 郵便局振込

口座番号 01620—8—41340

口座加入者名 寺田寅彦の銅像を建てる会

(2) 会計担当者は事業終了後に監査役に監査を受け、役員会の承認を得る。

(3) 目標額を超えて募金が集まった場合は役員会にて適切な処理をし、高知市に寄附するものとする。

## 11. その他

この事業で制作した銅像は、高知市に寄附するものとする。